

千年の草原の継承と創造的活用総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4+3.7)/2=3.9$

3.9

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	評価指標(1) ①草原管理面積	98%	4
2	評価指標(1) ②野焼き再開牧野数	200%	5
3	評価指標(2) 牛馬の放牧頭数	0%	-
4	評価指標(3) ①観光入り込み総数	0%	-
5	評価指標(3) ②阿蘇地域の宿泊客数	0%	-
6	評価指標(4) あか牛肉料理認定店数	66%	3
7	評価指標(5) 草原体験利用者数	0%	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 4$

4.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.7

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3.3+3+4)/3=3.4$

3.4

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.9

- ・飼料価格高騰の下で放牧の対するニーズが高まっていると推測され、放牧による飼料費削減効果を明示し、牧野利用拡大につなげることができればと思う。
- ・コロナ禍収束により観光需要の回復が見込まれるが、その時に質の高い、当初計画していた草原ツーリズムを実現・提供できるかどうかが問われることになるだろう。
- ・コロナ禍の影響もあり、目標を達成する指標が少なく、進捗は順調とは言えないが、草原の維持・再生は生物多様性の面からも重要であり、継続的な取組を期待する。
- ・多様な関わりをもつ主体や組織の体制強化が図られている点は注目される。
- ・野焼き再開をした牧野組合が毎年あることは、評価できる。
- ・牛馬の放牧頭数は傾向をつかみにくく、令和3年度の減少や、それ以降の動向を分析する必要がある。
- ・あか牛肉料理認定店数については、単に店舗数を確認するだけでなく、注文の状況、店舗経営への影響、観光との関連などを分析したい。
- ・地震災害やコロナ禍の影響の中で、複数の事業を組み合わせ、継続して文化的景観としての阿蘇の草原の維持管理と観光促進に取り組まれていることが評価される。
- ・阿蘇ならではの関係人口づくりの戦略が重要。ふるさと納税などで既につながっている阿蘇との地縁・ゆかりのある方々に、ビジネスや子育てをきっかけに野焼きに関わってもらおう仕掛け、地元在住の外国人による野焼きボランティア育成研修との次の新たな関係構築など、新たなアイデアを模索しつつ、阿蘇草原に関わる様々な組織とのつながり構築を、今後も継続的に進めていただきたい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.9

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.9+3.4+3.9 \times 2) / 4 = 3.8$

3.8

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。